思いやりとありがとうの心で

草津市立草津第二小学校　道徳･人権通信　令和３年５月２７日　NO.1

この通信では、道徳科の学習や人権にかかわる学校での取り組みの子どもの様子などを保護者や地域の方々に伝えていきます。

☆フレンズデー☆

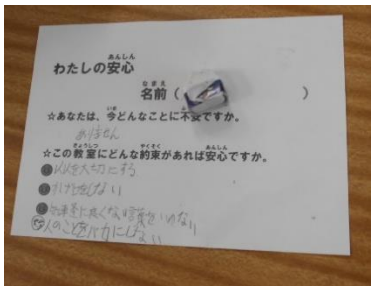
毎月１度のフレンズデーを設定しています。フレンズデーでは、全校のみんなでエンカウンターやテーマに合った話をもとに、友だちや人権のことを考えます。その中でわかったことや感じたことを大切にし、思いやり・親切・感謝の心を育んでいきます。

○4 月のフレンズデーでは、さくら学級の先生から話を聞きました。

「一人ひとり顔や好きなものが違うように、みんな違っていろいろな人がいるからいい。自分のペースで成長していったらいい。それぞれのペースを大切にしているのがさくら学級です。子どもも大人もみんな違っていいんだよ。」というメッセージがありました。さくら学級の教室・活動の様子の紹介や、みんなで大切にしていきたいことなどのお話を目と耳と心で聴きました。

わたしたちは、一人ひとり得意なこと、苦手なこと、背の高さ、声の大きさ、のんびりしていたり、せっかちだったり、にぎやかなところが落ち着かなかったり、好きだったり…いろいろなことが違います。友だちと仲良くしたいなと思っているのにうまく表現できなかったり、はずかしくて声がかけられなかったり…。そのような一人ひとりの違いを持ちあじとしてとらえ、その持ちあじを知ることでわかり合え、それぞれの安心につながっていきます。

○５月のフレンズデーのテーマは「安心ルールをつくろう」でした。学級にどんなルールがあったら安心できるかみんなで意見を出し合いました。



草津中学校区では、就学前（小学校入学前）から高校までのつながりを大切にし、それぞれの発達段階に応じた取り組みで人権教育に取り組んでいます。「安心ルールづくり」は、その一つです。自分たちが学校生活を安心してすごしていくためにはどんなことができるのか、日々、「安心ルール」を振り返っていきます。

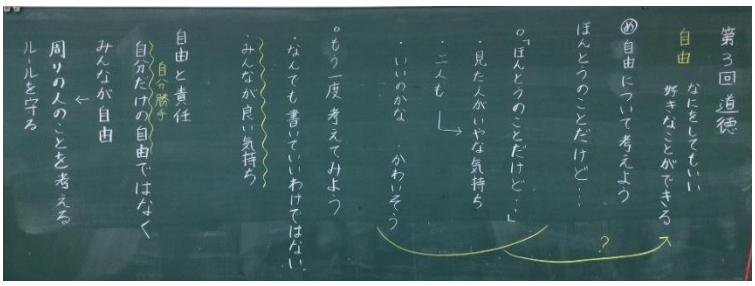
人の話を聞く時には、「おー、へー、そうなんだ、なるほど」の「おへそな」のうなずきを大切にすることを確認しました。

自分の話を聞いてくれていると感じられることはうれしいことです。また話をしたくなります。そして、人の話をしっかり聞くということは相手を認め大切にしているということです。

いそがしい時もありますが、互いの話をゆっくり聞き合う時間を大切にしていきたいですね。

道徳の学習から

６年生　「ほんとうのことだけど……」



主人公みえ子が、仲のよいなつみと一緒に、校内壁新聞のトップ記事を考えていると、先生から「自由に考えていい。」と言われました。なつみは、学級の子が転んだり、バトンを落としたりしている写真を選び、それをおもしろおかしく記事にしていました。みえ子は、初めは一緒に笑っていたものの、本当のことだけどそれを記事にしてもよいのか迷ってしまいます。去年の６年生が書いた運動会の記事を読み、なつみに対して記事の内容を考え直すように言いました。

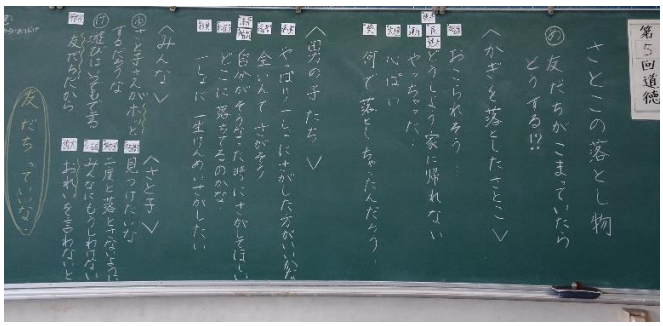
本教材を通して、本当のことなら思うようにやってよいのかを問い、自律的な行動の大切さについて考えました。

＜子どもたちのふり返り＞

・自由とは、好き勝手にすることではない。みんなが自由にするためには、周りの人のことを考え、行動することが大切だと思った。

・みんなのことを考えたルールの中で、自分の思うようにしていきたい。

３年生　「さと子の落とし物」



遠足で公園に行ったさと子たち。自由遊びを始めようとした時、さと子は家の鍵を落としたことに気付きました。泣き出しそうなさと子に、女の子の友だちが「みんなで探しに行こう。」と励ましますが、男の子たちは、遊びを優先しようとしました。しかし、“友だちだから”と一人が言ったことをきっかけに、みんなで探すことになりました。困っている友だちの気もちを理解して、互いに助け合う大切さについて考えました。

＜子どもたちのふり返り＞

・困っている友だちのために助けてあげたいと思った。

・友だちが困っている時には、自分から進んで声を掛けるようにしたい。